

学年：1年	単元名：どんなけいさんになるのかな
-------	-------------------

1. 単元目標：(全2時間)

○加法や減法を適用して問題を解決することを通して、演算を決定する能力を伸ばす。
考判表・場面をイメージし動作化することで、演算決定をしようとする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・演算決定の根拠をはっきりさせる。</li> <li>・既習事項を活用する。</li> </ul>
知・技・適切な立式をして、問題を解決することができる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・作問ができる。</li> </ul>

2. 指導内容

- ・加減についての演算決定

3. 指導のポイント

○場면을イメージし動作化する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・動作化することによって演算決定をしていくよう指導する。</li> <li>・演算決定の根拠を「ことば」ではなく「動作」に置くように指導する。「ことば」は、補助的な役割と考える。</li> <li>・動作化によって、「ふえるのたし算」「あわせるのたし算」「のこりはのひき算」「ちがいはのひき算」の区別をはっきりさせていきたい。</li> </ul> ○課題の場面設定は、時間的経過がある。だから、時間的経過に従ってイメージする必要がある。そのため、文は、指導者が読むほうが良い。子どもに視覚的に捉えさせると時間的経過が混乱する可能性があるからである。         ○動作化は、イメージ化を助ける働きとともに、説明を補助する働きがあるので有効である。         ○場면을イメージして、それをブロックで表現したり、図にかいて表現したりすることも大切である。         ○作問は、文をかくのではなく、「お話」するような指導がいいと思う。
--

4. 指導にあたって

- ①子どもたちにどんな見方や考え方を獲得させたいか。
- ②それを通してどんな子どもに育てたいか。

5. 学習展開

第1時

学習のめあて（作業・知る・考える）
○どんなけいさんになるのか考えて問題を解こう。(P86/87)

教師の発問と活動・子どもの発言と活動	知識・理解・資料・評価・留意点 他
1. 問題把握・自力解決・学びあい T:今日は動物園での勉強です。たし算かひき算かを考えて式をかいて答えを出す勉強をします。P86/87を開きましょう。問題が4つあります。1つずつ問題を解いていきます。絵は、使いますが、問題文は、プリントでします。プリントを見ましょう。 ※プリントの拡大コピーを黒板に貼る。 T:では、1番です。おすのらいおんは、何頭いますか?→C:7頭 T:そうですね。( )の中に7とかきましょう。 T:めすのらいおんは?→C:4頭 T:( )の中に4とかきましょう。これでやっと問題ができました。 では、読んでみます。「おすのらいおん・・・・・・・・」	・WS

<p>※子どもたちと動作を入れながら2～3回読む。  T:式と答えは、どうなりますか。WBにかきましょう。  かいたら、見えないように裏返しにして待ちましょう。  T:かけましたか。では、一緒に先生に見せますよ。いち・に・さん!  T:みんな「<math>7+4=11</math> こたえ 11 とう」になっています。  これでいいですか?→C:これでいい。  T:ではちょっとききますが、どうしてたし算とわかったのですか。  C:「みんなで」という言葉があるから。手でこうするから(合併の動作)  T:そうですね。言葉や動作で何算か見つけることができます。  動作を使って考えると便利ですが、動作がわからないときは、言葉を探してみるのもいいですね。では、プリントに式と答えをかきましょう。  <math>7+4=11</math> こたえ 11 頭 (板書)  ※計算のできにくい子供には、○図をかかせてもいいし、ブロックで操作させてもいい。</p>	
<p>1. 問題把握・自力解決・学びあい  T:では、次2番です。  あひるは?→C:11羽→T:かきましょう。  いけからでたあひるは?→C:3羽→T:かきましょう。  T:では、問題ができたので、読みます。「あひるが・・・・・・・・」  ※子どもたちと動作を入れながら2～3回読む。  T:では、式と答えをWBにかいて、裏返しにして待ちましょう。  T:では、一緒に先生に見せますよ。いち・に・さん!  T:おかしいですね。答えが2つでてきました。  「<math>11-3=8</math> こたえ 8 羽」「<math>11+3=14</math> こたえ 14 羽」です。  ※子どものかいた2種類のWBを黒板に貼る。  T:どちらが正しいんでしょう。自分の考えを言いましょう。  ※○図をかいて説明させてもいいし、ブロックで説明させてもいい。  ※まとめとして、言葉と動作の両方で押さえる。  言葉: できると 動作: 求残の動作  T:ということは、「<math>11-3=8</math> こたえ 8 羽」です。  プリントにかきましょう。  T:では次3番です。  プリントに数値を書き込む。  ↓  立式・答え  ↓  根拠の発表: 動作・言葉 (動作化だけに絞ってもよい)    T:次は4番です。(求差の問題)  プリントに数値を書き込む。  ↓  立式・答え  ↓  根拠の発表: 動作・言葉 (動作化だけに絞ってもよい)  ※求差の定着がうまくいっていなければ、再度、求差の説明を加える。  ◀○○○○○)○○○○○○○ 言葉:「どちらが」「ちがいは」  ◀○○○○○)</p>	

## 2. まとめ

T:これで4問終わりました。たし算になるかひき算になるかしっかりと理由をもつて、式を立てましょう。(立式の根拠をはっきりさせる。)  
次の時間は、この4問と同じような問題をみんなに作ってもらいます。  
つくり方は、次の時間に説明します。

### 第2時

学習のめあて(作業・知る・考える)

〇たしざんやひきざんのおはなしをつくろう。

(第2時) 作問中心

1. 作問の仕方を師範して、4つの作り方を説明する。(WS配布)
  - ・数値は2けたまで。繰り上がり、繰り下がりがなくてもよい。
  - ・単位は、動物によって適当に変更してもよいことを伝える。
2. 1問ずつ問題の用紙と答えの用紙を持ってこさせる。
3. 合格したら、答えの用紙をノートに貼る。
  - ・多い子供は、4枚。少ない子供は、1枚。
4. 4つ作問できた子どもは、できた子ども同士交換して問題を解いていく。  
4問できていない子どもは、できるだけ、4問できるようにする。